

作家の値段



[作家の値段 下载链接1](#)

著者:出久根 達郎

出版者:講談社

出版时间:2007-5-22

装帧:精装

isbn:9784062140591

この『作家の値段』という本は、有名な小説家の稀覯本が、古書業界においてそれぞ

れいくらぐらいの価格になるか、ということを書いたエッセイだ。出久根さんの古書店主としての知識と経験が存分に生かされていて、読んでいて楽しいことこの上ない。司馬遼太郎、三島由紀夫に始まって、山本周五郎、川端康成、太宰治、寺山修司、宮澤賢治、永井荷風、江戸川乱歩、樋口一葉、夏目漱石、直木三十五、野村胡堂、泉鏡花、横溝正史、石川啄木、深沢七郎、坂口安吾、火野葦平、立原道造、森鷗外、吉屋信子、吉川英治、梶井基次郎まで総勢24名の作家について、それぞれのエピソードを紹介しつつ、今現在における初版本がいくらで取引されているかをふまえながら、その作家を「値踏み」していくという、出久根さん本人曰く「本邦初の、読んで損はない、どころか読めば儲かる実益作家論」なのだ。

直木が有るのに芥川が無いのはなんでだ、と思った方、この本は続編も出ており、芥川や谷崎はそこに登場する。

ところで、この本を読んでまず思ったのは、これは『ビブリア古書堂の事件手帖』のネタ本だなということである。例の太宰の『晩年』のアンカット極美本の古書価が300万という話も出てくるし、福田定一の話も出てくる。出久根さんは槌子さんよりも饒舌に語りかけてくるのだ。

作者紹介:

出久根 達郎（でくね たつろう、1944年3月31日 - ）
は日本の小説家、随筆家[1]。茨城県行方郡北浦町（現：行方市）生まれ。

中学卒業後集団就職で上京し、月島の古書店に勤める。1973年独立し、杉並区で古書店「芳雅堂」を営む[1]。そのかたわらで作家デビュー。1990年「無明の蝶」「猫じゃ猫じゃ」「四人め」「とろろ」で直木賞候補。1992年に『本のお口よごしですが』で講談社エッセイ賞。1993年に『佃島ふたり書房』で第108回直木賞。読売新聞「人生案内」の回答者の一人である。

目録:

[作家の値段_ダウンロード1](#)

标签

文学

非虚构

杂集类

日文书

日本研究相关

日本文学

图书馆

kindle

评论

非常有趣！不仅有作家们的八卦逸闻，还从中捕获了一些很不错的选题（希望能做但...）；作者本身也是文笔家，故而文章流畅生动。此外，本书对二手书从业者应该也会是很好的参考书。而读者们最厌恶的腰封啊，若干年后那书成了稀罕品，有无腰封的差距可就是数倍差价或一个0那么多了。。所以续篇会引进吗！

非常有趣，《古书堂事帖》的参考书之一。茱子背后的人，其实是这位老爷爷>

迅速的刷了一遍喜欢的人然后放弃啦，即使延期了14天我仍然是个日语废，顺便一提实际是连带着八卦一起讲了的稀有本价格介绍，一开始以为是“聊聊我喜欢的作家”的模式（是时候该长点记心别看个封面名字就借书了，看不完会焦虑的少年

[作家の値段_下载链接1](#)

书评

书话类作品很少有涉及到非常专业的版本知识，往往主要以个人见闻居多。当然更少会直接公开价格，毕竟很多事情属于约定俗成的默契，更多人知道价格以后，这些书的价格自然水涨船高，再收集的难度也会增大。而对于普通读者来说，如果自身并没有太多版本知识，又或者对淘旧书兴趣...

在新书层出不穷、铺天盖地的今天，有很多曾经为读者推崇的作家及其作品正悄悄退出历史舞台，鲜少为人提起，即便那些仍然占据一席之地的已故作家，其作品价值也常引起争论不休，高下难以立判。好作品是无价的，但人们又不得不给书籍定价。新书的定价由不得读者，旧书则不然。旧...

《给作家标个价》，书看着还行。特别是副标题：旧书店的文学论。一般情况下，旧书的买卖属于出力不讨好的工作。一来旧书的书源很不好找，所能够找到的书籍的质量更是参差不齐，需要搭理和费心的地方多了去了，好不容易整理好了，价格还不敢标的太高。不透明，不公开，更是有...

藤泽周平是笔名，他本名叫小菅留治（跟笔名八竿子打不着）。PS. “藤泽”是他妻子娘家的地名（这个是wiki查的）。川端康成当过小学生作文评委。太宰治很敬仰森鸥外，他的墓就在森鸥外的墓斜对面，而森鸥外的女儿又是太宰治粉丝。宫泽贤治信仰法华经，生前还在东京从事过布教...

要坚持写读书笔记真的是一件好艰难的事情，特别是对于一个急性子，追求读书数量的人来说。几个月过去了，读的书不算少，感悟也有，我就是不太愿意停下来重新整理读书过程中的感悟与思索。写读书笔记这件事情，我需要强迫一下自己。
《给作家标个价》是旧书店老板出久根达部写的...

[作家の値段_下载链接1](#)